

## やんばる：希少な生物多様性の環境

やんばるは沖縄本島の最北端にある地域です。やんばるの内陸部は低いながらも険しい山々で構成されており、その約 80 パーセントは豊かな亜熱帯の森に覆われています。やんばるのような規模の森林は、この緯度（北緯 27 度付近）では世界的にも珍しいものです。季節風や南から流れる暖流「黒潮」により、この場所では常緑広葉樹が優勢です。

南北 32 キロメートル、東西 12 キロメートルのやんばるは、沖縄本島の他の地域に比べて比較的未開発の地域です。それほど大きくありませんが、ここには驚くほど多様な野生動物が生息しています。やんばる地域は日本の総面積のわずか 0.1% にすぎませんが、ここでは日本の鳥類種数の半分と在来種のカエル種の 4 分の 1 が見られます。遠い昔、琉球列島がアジア大陸および日本本土から分離されたことにより、日本唯一の飛べない鳥である絶滅危惧種のヤンバルクイナやノグチゲラなど、多くの固有種が独自の発達の道をたどるようになりました。

やんばるの鬱蒼とした森林には、そびえ立つイタジイ (*Castanopsis sieboldii*) の木から珍しいシダや繊細なランまで、幅広い植物種が生息しています。やんばるのマングローブ林は、さまざまな潮間帯種を支えながら、海岸環境の健全性を維持する上で重要な役割を果たしています。この豊かな生物多様性により、やんばるは保全活動における重要な保護区であり、そのユニークな生態系の探索に興味のある自然愛好家にとっての安息の地となってい

ます。